

一人ひとりが部落問題解消に向けた担い手・主人公に

結婚・就職などの身元調査をなくすために

- 身元調査をしない、頼まない、頼まれても断るという姿勢を持つ
- 一人ひとりが自らの人権を守るという意識を持つ

被差別部落のイメージは「閉鎖的」なのか

江戸時代の賤民身分の子孫が代々固まって住み続けているところだと誤解していませんか。結婚は被差別部落出身者同士が多いと思いませんか。これらは、過去のデータの的にも否定され、被差別部落は閉鎖的なのではなく、周辺地区と同様に開放的なのです。

情報リテラシーを身につける基本ステップ

- 情報を探すスキル
 - ・ 信頼できる検索エンジンを使う。
 - ・ 公的機関や信頼性の高いサイトを選ぶ。
- 情報を評価するスキル
 - ・ 出典(発信者)が信頼できるか確認する。
 - ・ 発信元が不明、特定の情報源しか取り扱っていない情報は、安易に拡散しない。
 - ・ 他の情報源と比較して、内容の正確性をチェックする癖をつける、古い情報ではないか、更新日を必ず確認する。
 - ・ サイトのレビューや評価を鵜呑みにしない。
- 情報を活用するスキル
 - ・ 著作権や引用ルールを守る。
 - ・ 必要な情報を整理し、適切に発信する。

私たちができること

- 正しい知識を学ぶ
歴史的背景や現在の課題を理解し、無知からくる偏見をなくすことが大切です。
- 差別的な言動を許さない
周囲で差別的な発言や行動を見たときには、声を上げたり注意したりする勇気を持ちましょう。
- 他者を尊重する
個人や地域に関する固定観念を捨て、誰に対しても公平であることを心がけましょう。



大東市人権室の HP で部落問題をはじめとする人権への市の取組や、人権意識を高める研修やイベント情報も確認してみてください。



概要版 あなたの疑問に答えます ～部落差別(同和問題)の解消をめざして～

発行年月:令和7年(2025)年3月

編集・発行:大東市 市民生活部 人権室

〒574-8555 大東市谷川1丁目1番1号

TEL:072-870-9063 FAX:072-872-2268

e-mail:j_seisaku@city.daito.lg.jp

印刷物番号

6-105

リサイクル適正 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます

～概要版～ あなたの疑問に答えます

～部落差別の解消をめざして～

あなたの疑問に答えます

～概要版～

はじめに

2016(平成28)年12月「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」が施行されました。そこには、「現在もなお部落差別が存在するとともに、情報化の進展に伴い、部落差別に関する状況の変化が生じている」と明記されています。特に、インターネットの悪用による部落差別の問題も指摘されており、国や地方自治体には、差別解消に向けた教育・啓発の推進や、相談・調査の実施が求められています。こうした背景のもと、本市では教育・啓発を推進し、相談業務の充実にも力を入れています。そして、令和6年度には「大東市部落差別(同和問題)に関する市民意識調査」を実施しました。

その調査の結果を踏まえ、市民の皆さんが疑問に感じていること、知りたいこと、そしてぜひ知っていただきたいことを別途冊子にとりまとめました。本書はその概要版です。部落差別の解消に向けて活用していただければ幸いです。

表記について

この冊子の中で用いる部落差別等に関する記載は、支障のない限り「部落問題(問題の呼び名)」「被差別部落(地域の呼び名)」「部落差別(差別の呼び名)」と統一して記載しています。

部落問題ってなんだろう？

部落問題は、昔の日本の社会で生まれた偏見や差別が、今も形を変えて残っている問題のことです。今の時代、SNS やインターネットには、事実ではない情報や、差別を助長するような発言がたくさん流れています。それを鵜呑みにして拡散したり、面白がって人をからかったりすると、自分では気づかぬうちに誰かを深く傷つけてしまうことがあります。部落問題は形を変えながら以下にあげる差別として続いています。

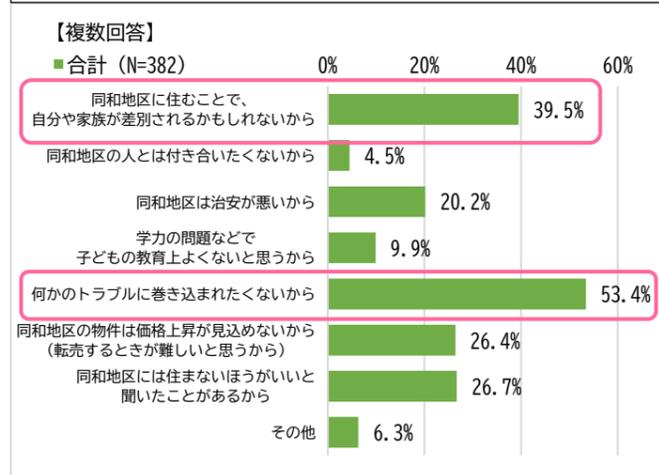
- 土地に関わる差別
- 結婚に関わる差別
- 就職・採用に関わる差別
- インターネット等での差別投稿

発行:大東市 令和7年3月

令和6年度「大東市部落差別(同和問題)に関する意識調査」(抜粋)の結果を見てみましょう

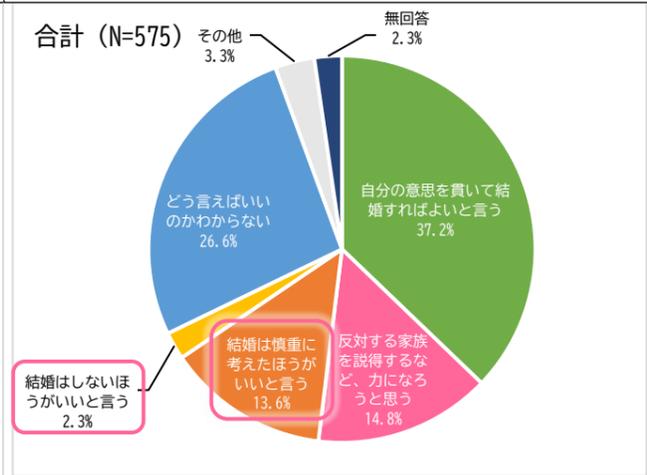
(1)土地に関する差別について

問7-1 問7で「1 避けると思う」「2 どちらかという」と答えた方にお聞きします。あなたはなぜそのように思うのですか。



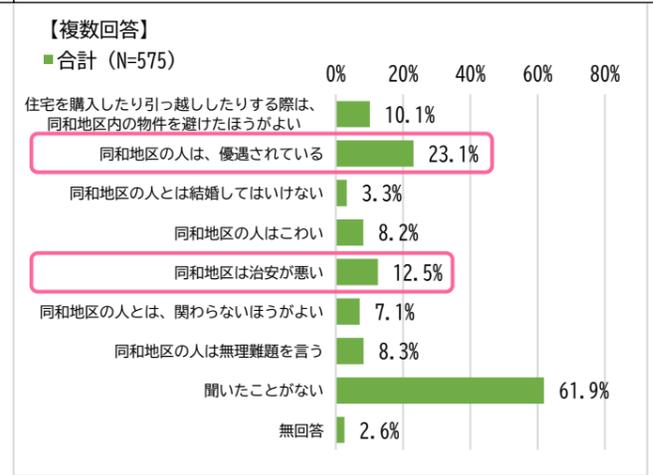
(2)結婚に関する差別について

問8 結婚しようとする相手が同和地区出身者だという理由で、家族から結婚を反対されている親戚のAさんがいたとします。あなたがその親戚のAさんから結婚の相談を受けたとしたら、あなたはどのようにしますか。



(3)同和問題に関する発言について

問10 あなたはこの5年間くらいの間に同和問題に関して次のような発言を直接聞いたことがありますか。



調査結果の全体を通じて
わかったこと

- 被差別部落出身者への忌避意識が強い
- 被差別部落に対してマイナスイメージを持っている
- 今も部落差別に関する発言を聞いたことがある市民が少なくないなど

一問一答(Q&A)でわかりやすく、簡潔に「部落問題への疑問」に答えます



Q 部落差別って今も残っているの？

A. 大東市では市民向けの人権啓発・研修や、小・中学校での人権教育などに取り組んでいますが、残念ながら今回の市民意識調査では、部落問題についての誤った認識や根強い差別意識が浮き彫りになりました。部落問題の解決や部落差別の解消のためには、まずそれらを正しく認識する必要があります。そうしなければ、部落差別に加担してしまう可能性もあるのです。

Q 結婚に対しても、避けるって人がいるのかな？ <<上図(2)参照>>

A. 同和地区出身者との結婚の相談に対して、「自分の意思を貫いて結婚すればよいと思う」(37.2%)や「反対する家族を説得するなど、力になろうと思う」(14.8%)という態度が全体の半数近く見られます。しかしその一方で、「結婚は慎重に考えたほうがいいと思う」(13.6%)や、「結婚しないほうがいいと思う」(2.3%)といった消極的な対応も見られ、結婚に関しても忌避意識が根強いことが明らかになりました。

Q 「同和地区」って聞くと、「閉鎖的」というイメージをもつ人がいるの？

A. 「どちらともいえない」という回答が最も多いものの、「閉鎖的」「暗い」「こわい」というマイナスイメージをもっている回答が3分の1から半数ほどあり、実際の被差別部落のありようとはかけ離れたイメージをもつ市民が多いことがうかがえます。テレビや新聞、雑誌などのマスメディア、さらには教育や啓発においても部落問題が取り上げられることが少ないことや、インターネットでの誤った情報、差別情報も影響していると思われます。これらのマイナスイメージが居住や結婚に関する忌避(きらって避けること)や差別を肯定し、支える意識となっています。

Q そっとしておけば自然となくなるものじゃないの？

A. 今回の調査では「同和問題は自然となくなるから教育や啓発はしないほうがよい」という考え方に対して、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」という回答があわせて32.2%ありました。この「寝た子を起すな」という考え方も根強く存在しています。部落問題に関する誤解や偏見に基づく発言を直接聞いたという市民はこの5年間に限っても35.5%にのぼり、その発言に反発や疑問を感じた市民は12.7%にすぎません。部落問題が自然となくなることはありません、この考え方を肯定する市民が約3割もいることは、今後の教育・啓発の大きな課題といえます。

Q 家の購入や引っ越しの際、同和地区を避けるって人がいるの？ <<上図(1)参照>>

A. 新しい住まいを選ぶ際、同和地区内の物件を『避けると思う』(「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」の計)という回答が63.3%あり、忌避意識の強さがうかがえます。その理由として、「何らかのトラブルに巻き込まれたいくない」(53.4%)や「自分や家族が差別されるかもしれない」(39.5%)などが挙げられます。また、被差別部落に対するマイナスイメージや否定的な発言を聞いた経験をもつ人ほど忌避意識が強いという結果も出ています。

Q 部落問題に関する誤解や偏見にはどういったものがあるの？ <<上図(3)参照>>

A. 今回の調査では、過去5年間に直接聞いた経験のある発言の中でも、「同和地区の人は生活の様々な面で優遇されている」が23.1%と、最も多くありました。1969(昭和44)年から2002(平成14)年までの33年間、国の特別措置法にもとづき行われた同和対策事業は同和地区の劣悪な生活実態を改善し、周辺地域との間に見られたさまざまな格差を縮小することを目的とした事業で、同和地区住民だけを一方的に優遇するというものではありませんでした。

